

蒼樹短歌会様(千葉県千葉市) 2~3

つくし俳句会様(新潟県新潟市) 3~4

三好康子様(神奈川県横浜市) 5

投稿作品 6~10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル(深まりゆく秋、何をして楽しみたいですか?) 11~13

新潟ぶらり/旧小澤家住宅 13

お客様の「リレーエッセイ」 内田友子様 14

ニュースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」 歌人千葉聡様 16

10 October Vol.64

*
「喜怒哀楽」は、
文芸を楽しむ方々の
活力の源を目指し
(株)ミューズ・コーポレーション
喜怒哀楽書房が
隔月発行している
情報誌です。

喜 怒 哀 楽

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇 ニュース

夜 楽

温古知新¹⁸

「源氏物語」9

ついに出生の秘密を知ってしまった薫。そして、
匂宮の行く末は……?

二月二十日ごろ、匂宮は初瀬詣の帰りに宇治の夕霧の別荘に立ち寄りしました。翌日、八宮から薫に贈歌があり、それを見た匂宮が代わりに返歌をします。匂宮は帰京後もしばしば宇治に歌を送るようになり、八宮はその返歌を常に中君に書かせます。

今年が重い厄年にあたる八宮は、薫に姫君たちの後見を托し、宇治の山寺に参籠しに出かけ、そこで亡くなってしまう。

秋、八宮の一周忌法要の夜、薫は大君に近づき恋心を訴えますが、大君に拒まれてしまいます。薫は中君を匂宮と結婚させようと考え、匂宮と中君を逢わせました。三日間中君の元に通い続けた匂宮ですが、その後は思うように訪問できず、大君と中君は、匂宮の訪れが途絶えたことを嘆き悲しみます。父帝は匂宮と夕霧の六君との結婚を取り決めます。これを聞いた大君は心労のあまり病に臥し、亡くなってしまう。

匂宮は宇治通いが困難なので、中君を京の二条院に迎えることに。二条院に迎えられた中君は匂宮から手厚く扱われます。そんな中、匂宮と六君の婚儀が決まりました。強い衝撃を受ける

中君。五月頃に懐妊し体調の悪い状態が続きますが、匂宮はそれに気づかず、中君は心さびしい日々が続くのでした。こんなとき、相談相手になり慰めてくれるのは薫でした。匂宮は、中君に薫の移り香がするのを怪しみます。中君は薫の気持ちをそらそうと、亡き大君に似た異母妹の浮舟がいることを薫に教えました。

翌年二月、中君は無事男児を出産、薫は権大納言兼右大将に昇進し女二宮と結婚。四月下旬、宇治を訪ねた薫は偶然、初瀬詣の帰路で浮舟一行と出会い、関心を持ちます。

浮舟は、八宮とその女房だった中将の君との間に生まれた娘でしたが、宮には認知されず、中将の君は浮舟を連れて常陸介と再婚。裕福で家柄も卑しくない常陸介のところには、それを目当てにした求婚者が多く、浮舟は、そのうちの左近の少将と婚約します。しかし、財産目当ての少将は浮舟が常陸介の実子でないと知るや、実の娘である妹に乗りかえて結婚。不憫に思った中将の君は、浮舟を二条院の中君のもとに預けに行きました。ところが匂宮が浮舟に近づき、それを聞いた中将の君は彼女を三条の小家に隠します。

薫は浮舟が三条の隠れ家にいることを知り、訪れます。そして翌朝、浮舟を車で宇治に連れて行ってしまいました。

浮舟と出会った薫と匂宮。物語は、ついにクライマックスを迎えます。

次回、最終回!? 浮舟、薫、匂宮はどうなるのでしょうか……。
(古川久美子)

蒼樹短歌会

尾崎友子様

(千葉県・千葉市)

9月14日、千葉市は若松町にある「蒼樹短歌会」にお邪魔してきました。会員の一人である尾崎さんは、昨年12月に弊社より『歌集 さくらなないろ』を出版されたお客さま。その本を手にしたお知り合いが「私もこんな風に歌を作れるようになりたい」と、3月にこの「蒼樹短歌会」を立ち上げ、以来約半年。尾崎さんの俳句のお仲間もいらっしやるのですが、まだ日の浅い歌会、さてどんな会なのでしょう。

汗だくになりながら、町内の集会所に次々と集まる皆さんは、町内会長さんをはじめ、大半がご近所の方という家庭的な雰囲気。本日披露担当の箕輪さん、終わるなり「あー終わった。今日一日分の労力を使っちゃった」とおっしゃっていたが、情感がこもってとても聞きやすい。参加者9人が持ち寄った18首から、各人が3首選び、講評をする。



▲農業に地域のお仕事に孫の世話と大活躍の尾崎代表

2点以上入った歌より
秋の日は釣瓶落としと立田姫もみじ葉拾
心の和み

尾崎：言っていることはそのままだが、秋を司る豊穰をもたらす神様「立田姫」をご存知の方だから、少しお年を召した方かな。「和み」とすると終わ



方が中途半端になるので、「和む」とした方が、自分の気持ちも伝えられる。あとどれくらい先があるのかと考えると、秋の風情の何を見ても心にしみてくる、そういう感じが伝わってきた。入れにくい言葉を手に入れて。作者：はい、おっしゃる通り、若い先を考えている年を召した者です(笑)。

縁にひとりみ魂祭りのたそがれを鳴けようたへよ千のひぐらし
ひとり、み魂、たそがれ、鳴けようたへよ…と淋しい状況を詠っている「千のひぐらし」が、すごい表現だと思っていた。作者：お盆に仏様をお迎えしたときの歌。今年例年になく蟬が多い気がし



▲毎月の歌会の歌をまとめた冊子は6号に

たので、いつそ千にしてみた。といえ資格がいいですが、この前カラオケで「千のひぐらし」という歌詞があり、そこから生まれた邪心のある歌(笑)。
山間の茅葺き屋根も懐かしき草餅食めば塩あじほのか

短歌らしい「ザ・短歌」という感じの歌。写真を見ているように、遠い昔を思い起こさせる懐かしい歌。この方に塩味の草餅を持ってきていただければもつとよかった。そうしたら、6点や7点が入ったね(笑) / 下の七・七がこの歌にいい響きを与えていて、ほのぼのとノスタルジックな感じを受けた。作者：お盆に一週間くらい田舎に帰った。昔は甘いと思つた草餅が、甘さよりも塩味を感じた。

鈴の音も足もかるけきはねとびの輪に入りたし十才若けりや
十才じゃなくて、三十才じゃない？ / 失礼な！ / あらから、作者わかつちやつた(笑) / 足もかるけきはねとびの、こういう表現が楽しそうでいい / 十才若ければ、私も… / 十才じゃ無理でしょ(笑) / 「十才若けりや」のフレーズ、インパクトがあった。それなりの年齢のはずなのに、はねとびの中に入ろうつていうんだから尊敬する / 言葉が全部スキップしている感じ / みな、願望だね(笑)。

作者：悪うございましたね(笑)。
暑き日々木洩れ日掃れる蟻の道己喝入れ腰をあげたり
70歳近くになると、己に喝を入れないと！という時がある。蟻にできるなら、私にもできるかな、と共感。
尾崎：歌が小さくなり、また広がって



いく。この歌を読んだとき、この方、夏バテか何かでちよつとお疲れ気味？と感じた。広がっていく歌と、しぼんでいく歌と、作り手が意識しなくても、その人のその時が見えてくるような歌がある。もし夏バテだったら、頑張ってもらわねばと思つていただいた。作者：軽やかな歌のあとに重たい歌。この夏は何もやる気が起きず、4キロやせた。

夏過ぎしひとけ無き浜一人きて破れし恋を夕日に申う
この会にほい恋の歌(笑) / 恋とか愛とか出てくると、オロオロして発言がはつきりしなくなるが、「恋」と「夕日」の組み合わせは多い気がするが…。
尾崎：なんとなくピタツとつながる言葉や、風、夕日、黄昏時、逢魔が時など、往々にして使いたい言葉や、歌としても生き、読み手にもインパクトのある言葉はある。そういう言葉を使う時は、一度歌にして31文字になったときにもう一回突き放してみるくらいのゆとりがあれば、きちんと仕上がった歌。自分の言葉として歌と向き合った時、その言葉が本当に必要かどうかは考える余地がある。出来上がつてすぐに惚れちゃったら危険。

笑顔礼讃西東

作者：全くの空想の歌。七・七の部分
を、最初、「背伸びをしたり叫んでみ
たり」としたが、少し色気のある方が
いいかな、と。

尾崎：淋しい淋しいですときて、引
き算で終る歌。歌の形としては申し分
ないが、どこか言葉にはまって、そうい
う言葉に自分の気持ちを助けてもらっ
て歌にする感じがなきにしもあらず。

藤棚ののびゆく蔓のその先は何をか掴
まん風に棚引く

藤は元気ですぐ伸びる。歌のとおり
先が揺れていて、よくとらえている／
淡々と詠われているが、何をか掴まん
が夢に向かって伸びているように感じ
る／「その先は何をか掴まん」が夢か
もしれないし、人生の真理かもしれない
し……。風に棚引くもうまい。

尾崎：「何をか掴まん」は、自分自
身の心に何か満たされたいものがあつ
て、そんな時に蔓の先が目に入り、自
分も頑張らねばと思ったのか。「何を
か」の「をか」がこの歌の象徴のよう。
年重ね茶の間の会話途切れがち唯そこ
にいる君だけでいい

二人でテレビに向かってたわいない会
話をしていても、いた方がいいかな、と
いう感じがして共感した／私に詠ませ
たら「君じゃない方がいい」だわ（笑）。
とてもこんな素直な気持ちになれない
から、他人事。
作者：そのままの気持ち。次、いきま
しよ（笑）。

消えかかる送り火開み皆無言煙し
かにならずなりけり

情景が見える／迎え火や送り火を
したときに、それが静かに薄くなつて

消えていき、思い出した人たちがいな
いというさみしさが胸にしみた／本当
に実感から生まれた感じのする歌。
尾崎：とても気持ちの伝わる歌。消え
かかってくる炎を見ていると、引き込
まれるように自分も周りも無言に、
静寂になっていく。その感じがこの歌か
ら立ち上がってくるようで、いい歌だ
など。「けり」よりは、「ゆく」とか「た
り」の方が短歌的でいい。

★初心者の方が中心の会と聞いていた
が、どうしてどうして。改めて、歌は
その方のピュアな本質が出るものと再
認識。そして、それは男性により強い
傾向も？ その方の、現在の体調まで
読み取る尾崎さんの心眼に驚くとも
に、カウンセリング的な役目と予防医
療の役割も果たしている歌会だと感じ
た。年末12月の歌会は、「カラオケも
する？」と呼びかけていた尾崎さん、
詠つて歌つて、また詠つて、これからも
末永くどうぞお元気で！（木戸敦子）



▲とにかく笑わせていただきました！

つくし俳句会

代表 島田謙吉様
(新潟県・新潟市)



9月16日、新潟市は巻町にある超結
社の会「つくし俳句会」へお邪魔してき
ました。巻町にお住いの方から成る当会
本日は暑さのため不参加の方もおられ、
女性6名、男性5名の計11名が参加。
最新9月号で通巻322号を数える
『つくし』は28年目に突入し、その間、
台風の1回を除き、一度も休んだこと
がないという熱心さ。さて、どのような
俳句をご披露いただけるでしょうか。

5句提出のうち1句のみ季題（今回
は桃）、あとの4句は当季雑詠。点の
入った句に対して点を入れた人を中心
に講評を行う。

嬰洗ふやうに白桃洗ひけり

赤ちゃんを洗うように大切に桃を
洗った。桃に対する愛情も出ているし、
赤ちゃんのふくよかな感じと白桃が
合っている／白桃はうぶ毛が光つて普通
の桃よりデリケート、傷つけては大変
／「けり」となっているが、「をり」では



▲代表の島田さんの前職は村上鬼
城と同じ司法書士



▲毎月発行の『つくし』は通巻322号

だめ？「洗っているよ」という、現在進
行形の方がいいのでは。

首都圏の子は鎌を借り稲を刈る

リズムカルに響いてきた／こういうツ
アーがある。ここでは、ごく当たり
前の風景だが、首都圏の子どもだから
こそ、おもしろいし、生きてくる。

作者：稲を刈る、サクツサクツとい
う感じを出したくて作った。

秋刀魚焼く煙は何処ぞ逃げたかな

さんまと煙はつきもの。あんなにも
くもくと出ていたのに、何処に消えた
のか。

作者：電気魚焼き器なので、煙が出
ない。いったいどこに？という気持ちで
詠んだ。

鬼城忌や出会い頭に秋の風

村上鬼城は昭和13年9月17日に亡
くなった。「闘鶏の眼つぶれて飼はれけ
り」など、命の厳しさを表現しており、
作者の心情がよく出ている／大正初期
に活躍した鬼城には、厳しい男の生き
様を詠んだ句が多い。

境目を埋めて稲田展がれり

田を植えた植田のころは畔や道も
はつきりして隙間もあったが、今では
道も見えなくなるほどの一面の黄金色、
いい景だなと。

毎年よ心の中で瀬祭忌

毎年正岡子規の瀬祭忌がくると、この作者は心の中で思い出しては畏敬の念を感じているのだろう。／「毎年よ」は、子規の「毎年よ彼岸の入りに寒いは」という句を踏まえており、しゃべり言葉がそのまま句になっている例としてよく挙げられる。

代表：先日、「朝日新聞」全国版の短歌の第一席は新潟の女性の歌だった。それは：「暑いわね なんてもんじゃない あつちよてもうぐれそうげだてばね」という作品（大笑）。新潟の方言だが、他の県の方でもこの暑さの表現は感覚としてわかる。同じく新潟の俳人で、脳神経外科の歴史の礎を築いた脳神経外科医、中田瑞穂の作品に「ひぐらしもやかましいほど泣きますて」という百姓言葉の俳句がある。要は伝わればよいということ。

喜怒哀楽し蛇穴に入りたる

春になり穴から出てきて、また秋に



入るまで、いいパートナーが見つからなかったなとか、蛇にもいろいろな喜怒哀楽がある。

なかなかうまくいかなかったこと言うものだと／蛇は夏、大いに活動し、秋の彼岸頃に穴に入る。大いに活動していることを「喜怒哀楽し」といったところが、今日お越しの喜怒哀楽書房の木戸さんへのあいさつ句でもあり、実景でもあり、うまいと思った。

表札は若き父の字秋彼岸

親戚が集まって「ああ、父の字だね」と話し合いながら、みんなで思い出にひたっている。その父親が家を守ってくれているという感じも出ている。／「若き父の字」がいい。表札の字も黒黒ではなく、秋彼岸と同様に淡い感じがする。

激安のサンマに群れるホモサピエンス

理性を持った人としての生物、その「人科」であるホモサピエンスが激安というとダツと押し寄せる。サンマもホ

モサピエンスもただけ遣伝子の差があるのか、そんなに違わないのでは？ という皮肉っぽさをいただいた。

白桃のはにかんでる白さかな

白桃の色はやや黄色く、少し赤みがかったり、それを桃がはにかんでいると表現した。

作者：白桃は真白ではなくて、赤みがかった白さを詠んだ。

実をとられ大口開けし栗の毬

確かに大口を開けているように見える。大事なものをとられているのに、大口を開けてのほほんとして、愛らしい。そういう見方がおもしろい。

クロスワードパズルが解けて桃すする

やった、解けた！ とクロスワードが解けた自分へのご褒美として、桃をすすっている。一読明快な作品、桃が非常においしく感じられた。

悠久の時止りたる良夜かな

スケールが大きいし、時間がとまっているように感じるいい句／景の大きさ、感動の伝わり方が素直。

敬老日倅せさうにしてるやう

倅せではないけれど、ふりをして今日一日を過そうという句／私自身、敬老日と言われても、馬齢を重ねる面はゆい感じがある。不幸ではないが、敬老日には倅せそうにしていないうと、申し訳ないような微妙な気持ちが出てくる。後期高齢者となり、85歳の方が明日の敬老会の招待状を持ってこられた。明日は、まさにこのようにしていようと思えます。フリなんかしなかった、普段も倅せらねつかね（笑）／人偏のある倅せ、こちらの字を使ったのがよかった。

作者：皆さんからたくさん点をいただいて、倅せそうではなく、倅せです（笑）。

マニキュアを恋色にかへ秋楽し

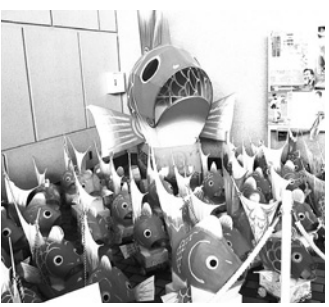
これから秋を楽しめる時期になってきた。「恋色にかへ」が、「秋楽し」に合っている。夏から秋への時期の移り変わりを表している。

写真家に芒も過疎も美しき

カメラのファインダーを通して見た、美しく見える情景／表現によつては、美しく見えるということ。芸術家の手にかかると、みんな美しくなるが、私たちの生活はそんなものではないのだがーという皮肉と、でも美しく撮ってくださいったわね、という写真家に対する賞賛の気持ち。

★通常の句会では無点句の鑑賞もしているが、この後に来月の句会後のお楽しみ「グルメの会」の打ち合わせがあり、早めの終了となる。越後平野に住んでいる方々のせいかな、皆さまおおかたで実直で、作品も豊穡の秋や実りを感じさせる句が多いように感じた。恩恵を受けるその土地で、その土地の人とともに、その土地の言葉で豊かさを称え、感謝し、愛で詠う。なんまら、いい会だった。

(木戸敦子)



▲かつて巻地区(新潟市西蒲区)では、お盆の夕暮れ時になると、浴衣姿の子どもたちがいくつもの鯛車にあかりを灯し町内を引いて回った。それは収穫の秋に入るとする晩夏の風物詩。

三好康子様 「句集水無月」

(神奈川県・横浜市)

9月15日、今年6月に『句集 水無月』を出版された三好康子さまに、横浜はみなとみらい近くの「帆船日本丸」が望める喫茶店でお話をうかがいました。

◎俳句は昔から？

55歳のとき、夫が脳出血でたおれ、その介護生活の中、ふとしたきつかけで近くの句会へ足を運ぶことに。最初は「さくら」としての参加だったが、「風土」同人の中村洋子先生のお人柄、生き方に魅せられ、「以来すっかりはまっちゃった(笑)」。

10年程経った今は、3カ所の句会に参加し、雑誌、新聞等への投稿のほか、連句のグループで集まったり、ネット上で友人と毎週10句ずつ発信しあったりと、俳句が生活の中心になりつつある。



▲けんかが嫌いでもけんかをしたことがないという穏やかな三好さん

◎何がそんなに？

句会で多様な選評を聞くのは本当に楽しいし、投稿した作品にアドバイスをいただけることも、生活に張りりと刺激を与えてくれる。俳句を始めてから、季節に対する感覚が磨かれ、日本語の美しさを再認識するともに、毎日の生活が豊かになったように感じる。自身も病を経験したこともあり、生きとし生けるものすべてが愛しくなり大切にしたいと思うようになった。

◎今回の句集はどうして？

お話があった時、まだ早すぎると乗り気ではなかったが、夫から「勤めていただけの時が好機、僕も明日のわからない身だから今作って」と背中を押され、それが物書きだった夫のリハビリの励みにもなるなら、との想いもあり踏み切った。粗製濫造だから10年で1万句以上あり、選んでいただいた句、評価の高かった句を中心に420句まで落とすのは容易ではなかった。

◎ご主人が応援してくれた？

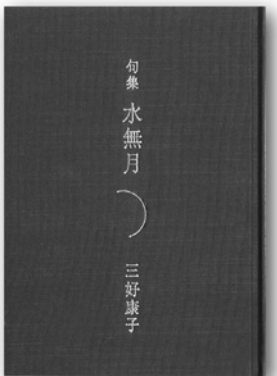
主人は、香川県の高松高校文芸部の先輩で付き合いも長く気心が知れている。高校卒業後、本当は美術を勉強したかったが、あの時代とても美大に行きたいとはいえず、隣県の高知大学文学部へ。喫茶店に集まっては、政治や文学を語り、学生運動に参加する毎日。結婚には全く関心がなかったが、大学4年の正月に東



▲「帆船日本丸」と帆の形をしたインターコンチネンタルホテルに大観覧車「コスモック21」

いながらも心を決め、大学卒業と同時に上京することに。以来、夫は物書き、私は出版社勤務を経て、編集の仕事や地域新聞の仕事に携わりながら二人三脚で家庭を築いてきた。

一番の理解者であり、私のような八方破れな者に「何でも見たいもの、行きたいところへ行つてらっしゃい」と、好きなことをさせてくれ、亡き母を自分の親以上に大切にしてくれ、今は旅好きな夫のリハビリを兼ね、しょっちゅう旅行に出かけている。8月は暑いにもかかわらず、名古屋と



▲藍色の布表紙を開くと真っ赤な見返し。三好さんを彷彿とさせます

その10日後には佐渡へ。離島好きでもあり、新潟の粟島や、沖繩の波照間島、島根の隠岐に足を運んだことも。

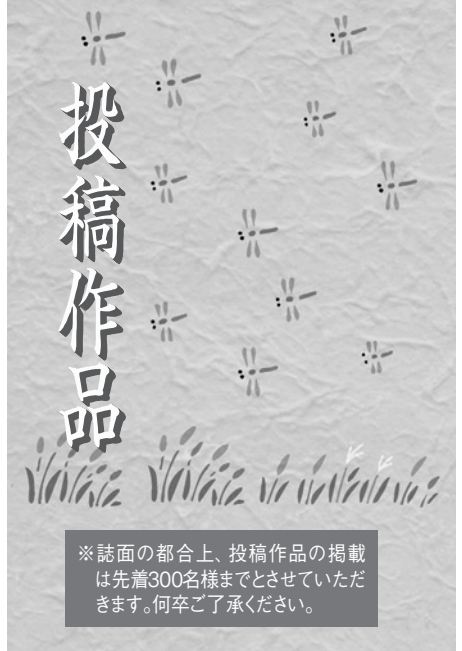
◎これからは？

俳画をやってみた。でも夫には「あなたはいろいろ興味をもつてやるけど、何か一つものになることをした方がいい。俳句だけにしておきなさい」と言われるから言っていない(笑)。それと、誰にでもわかる平明な俳句を作りたい。そのためには、先達の句や評論を読んで勉強していきたいけど、やりたいことがたくさんあり過ぎて、読むのが追いつかない。

句集「水無月」より

這ひ這ひにふんばる手足山笑ふ
きつね面つけて迷ふや夕桜
奥嵯峨は紅葉浄土となりけり
早春や来るもみんな爪立ちて
地に抱かれ陽に愛されて福寿草

★小学4年の時に文芸部に入り、中学では源氏物語にはまり文芸部を作り、高校の文芸部でご主人と出逢い、「勉強もせず小説を読みふけり、詩や小説や短歌ばかり書いていた」というほどの文学少女だった三好さん。源氏物語の輪読会は始めて10年、好きな美術館巡りは一日に4つの美術館を回ったこともあるとか。好きなことにはまっしぐら。お話の端々に、終始一貫、ご主人に対する思いやり、気遣いがある「彼を看取ってから逝きたい」と、知的な外見の内実はとても熱い女性だった。(木戸敦子)



投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。

川柳

- 1 虫の声だんだん秋を深くする
近藤はつみ(福岡県)
- 2 いつの日も叱ってくれる同伴者
野田明夢(新潟県)
- 3 和解した夜の風鈴も澄んでくる
安田翔光(香川県)
- 4 旅帰り花のピンチに詫びて水
大岩歌子(岡山県)
- 5 五輪とは運動会のかいもの
濱田イサオ(福岡県)
- 6 もて余す暇が危険を生んでくる
楠瀬美香(高知県)
- 7 孫達の元気な声にとし忘れ
松田義登(福岡県)
- 8 指示はイヤ自由を選び藪の中
藤井碩子(山口県)
- 9 過疎の街自衛隊医を派遣して
大川聡(新潟県)
- 10 大漁の笑顔に湧いた地引き網
工藤昌見(山形県)
- 11 とんがり帽子剽軽な雲
松田重信(埼玉県)
- 12 マネキンが小太りならば買ったはず
石原岳(群馬県)
- 13 いつまでも妻と二人の夢若葉
諸橋文男(新潟県)
- 14 巾着に飯を詰め込むいなり寿司
丸山芳夫(東京都)
- 15 どつかりと孤独と座る駅の椅子
藤井北灯(福岡県)
- 16 ひとすじに愛してくれた母恋し
守屋高雄(岩手県)
- 17 時代劇無いから今夜は早く寝よ
大江秋月(兵庫県)
- 18 よき民の声など聞かぬ鉄面皮
南喜美子(千葉県)
- 19 じいちゃんの胸に輝く勲五等
宮崎正男(群馬県)
- 20 八十路の翁も母の日母思う
原田英一(千葉県)
- 21 おぼろ月泣くのはおんなだけじゃない
石山幸枝(新潟県)
- 22 縄電車笑顔を乗せる始発駅
金子育司(埼玉県)
- 23 丸い背の母が迎える無人駅
羽田桐柳(群馬県)
- 24 走り過ぎ余生は一寸ひと休み
伊藤嘉枝子(東京都)
- 25 ネクタイの出番奪ったクールビズ
藤沢健二(千葉県)
- 26 おトイレで一息入れる暮れそうじ
小山恵美子(大阪府)
- 27 多寡よりも心を贈ることにする
竹村穂夫(大阪府)
- 28 好きなのに好きと言えずに半世紀
山崎一嘉(愛媛県)
- 29 本音言つたらおらの祭りの絶叫大会
鈴木章(新潟県)
- 30 鈴持たぬ鈴虫鈴の音を奏で
久本にい地(岡山県)
- 31 父の背を越せないままに生きている
鈴木義雄(福島県)

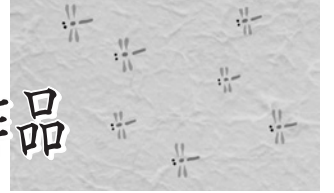
- 32 六〇年逢わない友と乗り合せ
青木日出男(群馬県)
- 33 体重もヘソクリも減る夏休み
高井逸代(岡山県)
- 34 賛否両論程よい距離を保つ耳
田澤宏(新潟県)
- 35 ボルテージ上げてミンミン今を生き
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 36 患者名ニヤータと書いてあるカルテ
鈴木青古(茨城県)
- 37 糊しろをたっぶり取って君と僕
岡本恵(茨城県)
- 38 空海も苦笑か高野の広告塔
奥那於子(大阪府)
- 39 宵を待つシャレタ女は月見草
村岡盛英(群馬県)
- 40 優しさに触れると満つる涙壺
鏡たか子(山形県)
- 41 蓮見舟私の乗れる蓮が無い
増島淳隆(東京都)
- 42 稲穂ゆれ愛ちゃんかかしこかしこ
岩崎令子(大阪府)
- 43 逆なでを吐いた男の格差論
松尾健二(千葉県)
- 44 大きな木見上げる私蟻になる
小林恵子(大阪府)
- 45 日本一仙台名物秋保のおはぎ
佐竹章(宮城県)
- 46 ちかちかと星の降りくる帰省かな
美濃部紘三(新潟県)
- 47 考妣を待ちて咲きたる白木樅
星野三興(新潟県)
- 48 子や孫が戻り賑やか盆二日
延原令岱(岡山県)
- 49 敗戦忌コーンパイプのマッカーサー
川崎洋吉(福岡県)

俳句

- 50 新涼や木戸さらさらと風の音
竹本美美子(新潟県)
- 51 常在戦場ビデオ又見る夜の長き
大橋恒次(新潟県)
- 52 パラソルを畳みシヤガール展に入る
津田忠彦(岡山県)
- 53 走りそば大きく曲る信濃川
村山砂田男(新潟県)
- 54 流されて戻りて日がなあめんぼう
砂邊照代(香川県)
- 55 安曇野に稲田いろづき赤とんぼ
須澤重雄(長野県)
- 56 春雷の待ちいて久し雨を垂れ
小林敏宏(長野県)
- 57 番きて巢箱笑顔に見えて来し
水落重式(新潟県)
- 58 秋時雨いまだ残れる蟬の声
山崎紀久江(福岡県)
- 59 夕端居風の行方を見てゐたり
中嶋清子(佐賀県)
- 60 柿紅葉ゴツホの色と思ひ見る
宮川昭男(高知県)
- 61 ブレーキの利かぬ滑走水馬
湯浅芳郎(岡山県)
- 62 手の甲の静脈濃ゆき暑さかな
小林七重(新潟県)
- 63 つづれさせ誰しも罪の二つ三つ
今井勝子(新潟県)
- 64 空蟬もセミもわれ待つ茅の門
日高一宇(福岡県)
- 65 コスモスの群れを揺らして貨車の列
鈴木清子(埼玉県)
- 66 再読が初読の如し喜寿の秋
阿部至(埼玉県)
- 67 生身魂忘れ上手となりけり
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 68 朝日燦々稲穂出揃う出羽の国
沢田稲花(山形県)

- 69 送り火を焚いてるひとの背に孤愁
林 克(福島県)
- 70 白芙蓉うす紙ほどの命かな
堅田秀子(東京都)
- 71 秋うらら猫の耳掻き吾も掻き
柳澤京子(宮城県)
- 72 山盧への道閉ざされて秋の蟬
橋本良子(埼玉県)
- 73 訃報手に母のうつろや九月盡
松涛千鶴子(東京都)
- 74 炎天の円周率はどこで切る
渡辺嘉幸(東京都)
- 75 縁側のゴーヤのあなた入道雲
若月理依子(新潟県)
- 76 喜寿にして抗ふ被曝天蓋花
有坂馨園(福島県)
- 77 蟬時雨喜怒哀楽を包みけり
橋本世紀男(東京都)
- 78 草いきれ大空仰ぎ寝転べる
千代田俳徒(東京都)
- 79 暮れかかるほのかな明かり白木樫
小形さだ(東京都)
- 80 到来の里の新米塩むすび
三ツ木宗一(東京都)
- 81 愛犬があらへ行つて夕月夜
関根千恵(埼玉県)
- 82 過ぎ去りし月日を思ふ虫の夜
青木ケン子(埼玉県)
- 83 藍の里捻り信じる稲の花
道給一恵(埼玉県)
- 84 朝顔に槿花一朝の夢あり
内河邦久(東京都)
- 85 人生の終の青春菊日和
井原毬子(東京都)
- 86 テレビ見るロンドン五輪熱帯夜
山崎吉晴(群馬県)
- 87 白子川母に肩かす送り梅雨
古谷力(東京都)
- 88 やすらぎの日の少くなさよ春風
野呂瀬則子(愛知県)
- 89 せつせつせと働く蟻を見ておりぬ
鈴木蝶次(宮城県)
- 90 石にあり水音にあり秋の声
阿部徳夫(宮城県)
- 91 ななくさに名を列ねたい曼珠沙華
稲垣恵子(埼玉県)
- 92 透ける身をもう構へる子蟪螂
川口襄(埼玉県)
- 93 父祖の地を売りし負目や盆の月
木村真澄(埼玉県)
- 94 ゴッホも見しこの星月夜一句成す
吉田末灰(群馬県)
- 95 オリンピック汗と涙の榮譽かな
山東爺(北海道)
- 96 夏巡る塩害枯れ木立ち並ぶ
富樫和子(山形県)
- 97 蟬穴の砲列蟬を撃ちまくる
居原田連星(大阪府)
- 98 潮鳴りは胎動に似て浜は秋
山本せつ子(鹿児島県)
- 99 一ふりの太刀の反り身や涼新た
環順子(東京都)
- 100 ニツ星シアワセニアフ白鳥忌
安部哲(新潟県)
- 101 布を断つ鉄の音や夜の秋
鈴木岑夫(千葉県)
- 102 夕涼み古墳広場も賑わえり
原田かずゑ(千葉県)
- 103 甚平の知ったか振りの嘘談義
伊藤幸博(群馬県)
- 104 夕映えの中落ちてゆく花木樫
檜山とり子(東京都)
- 105 甚平着て昭和の男に戻りけり
今井岩夫(千葉県)
- 106 余生にもときめきありて夕涼み
野木宗信(奈良県)
- 107 記憶に黒い雨降る原爆忌
寺岡文生(静岡県)
- 108 黙禱をして炎天の棒になる
北村純一(神奈川県)
- 109 ジャングル戦蛙と蛇にたすけられ
中森儀雄(三重県)
- 110 子や孫の故郷護り生き敬老日
田島星景子(宮城県)
- 111 ネズミの仔病葉とていぶかしむ
白戸麻奈(東京都)
- 112 さわやかに風抜けてゆく光堂
高松愛(神奈川県)
- 113 百日紅餌さがし忙し蟻見詰む
渡邊昭雄(東京都)
- 114 空澄むや心遊ばせちぎれ雲
川嶋法子(東京都)
- 115 夕刊のとどく時間や花空木
副島加代子(宮城県)
- 116 山を越え荷を負う歩荷人も乗せ
倉岡依世(東京都)
- 117 竿燈や四十六燈みなこがね
土谷敏雄(秋田県)
- 118 風鈴のふと止まり独ぼつち
中野勝子(鹿児島県)
- 119 おみやげの包解く如桔梗咲く
堀田寿美子(北海道)
- 120 無人駅出でて土手沿ひ彼岸花
田中昶(鳥取県)
- 121 鈴虫の声に癒され秋を知り
大橋絵代(千葉県)
- 122 深々とさみしさ隠す夏帽子
森川千英子(千葉県)
- 123 アルバムの父の癖字や秋彼岸
長峰正晴(千葉県)
- 124 弘前に早や秋の聲天守閣
渡辺茫子(千葉県)
- 125 甘酒の手作り味見二度三度
三津木俊幸(千葉県)
- 126 野のコンサート歌ふマイクに赤蜻蛉
佐瀬千恵(神奈川県)
- 127 美味しさを行儀よく詰めたサクランボ
杉村美保子(岩手県)
- 128 千代ちゃんは今もアイドル風仙花
井上静夫(栃木県)
- 129 くらがねの車が通る残暑かな
小井寒九郎(三重県)
- 130 帰省子の去れば寡黙に戻りけり
石崎ひろ美(神奈川県)
- 131 身長がまた縮んでる敬老日
紺谷睡花(東京都)
- 132 どうしてもパズルが解けず昼寝かな
藤沢樹村(東京都)
- 133 おもかげは門に待つ母夕焼中
堀木和子(大阪府)
- 134 露地ぞうりかろやかに尼の白重
炭崎博(滋賀県)
- 135 泳ぎても泳ぎても海聖マリア
阿部重則(鹿児島県)
- 136 甘酒の香りとなりし麴釜
柚山美峯(東京都)
- 137 南瓜は薫り高くて母愛し
五味田幸夫(神奈川県)
- 138 行水に女盛りの語がほしい
菊池シユン(青森県)
- 139 二の鳥居過ぎ走り根の登山道
津布久信雄(東京都)
- 140 遺句集を読み残暑の夜明けかな
苧木匡子(滋賀県)
- 141 球児らも黙禱ささぐ終戦日
日根野昭治(大阪府)
- 142 ひまはりや小字の残る地に泊る
小山たけし(埼玉県)
- 143 空蟬の風に抗ふ瓜ならむ
佐伯はる(奈良県)
- 144 盆過ぎて小公園の賑わえり
木下精(大阪府)

投稿作品



- 145 孫泊るやさしき夜の菊繪 油谷郷史(兵庫県)
- 146 恨むより恨らみ買ふ歳天の川 浦橋渴雪(兵庫県)
- 147 秋高し世界に誇る摩天楼 山本吉夫(三重県)
- 148 夏神楽一村はみ出す囃しかな 井上氣海(広島県)
- 149 新涼や大阪駅の変わりやう 村上千代(大阪府)
- 150 空蟬や意識ひととせ無き人よ 有田裕子(北海道)
- 151 まぐれなるホールインワン出て天高し 高橋まさ子(宮城県)
- 152 富士よりの闇引き寄せて送り盆 清まさじ(静岡県)
- 153 山住みの緑雨に心明るめり 藤田三四郎(群馬県)
- 154 七夕絵酷使の果ては古団扇 佐野しづ子(愛知県)
- 155 みんな夢もんしる蝶がとんでいる 暉峻康瑞(鹿児島県)
- 156 初蟬や湯の宿に聴く女旅 大場きよし(宮城県)
- 157 ひまわりの花長崎の鐘の鳴る 布目雅之(埼玉県)
- 158 空風の廃炉見上げる無人駅 加用章勝(千葉県)
- 159 慰霊碑にすぎる空蟬敗戦忌 佐野和彦(静岡県)
- 160 百人の各々にある敗戦日 栗原黎(群馬県)
- 161 八月十五日過ぎても忘れまじ 福岡悟(東京都)
- 162 じいじいと呼ばれて嬉し夏休み 堀井酔人(茨城県)
- 163 日輪のしばらく休む夏の雲 河合ヤスエ(大阪府)
- 164 指折つて少女の一句夏休み 早矢仕邦夫(愛知県)
- 165 自転車にアイスクリームデー城の街 山本直子(大阪府)
- 166 聞き役に徹していたるトマトかな 岩永登茂子(大阪府)
- 167 玻璃戸越し覗きし月にキスをする 忍正志(兵庫県)
- 168 原爆忌わすれられない青い空 西口東治(大阪府)
- 169 炎天に商い怠け笨かな 遊佐早苗(宮城県)
- 170 古都の庭曲水流れ萩の花 中村和弘(愛知県)
- 171 あめ色の父の匂ひの麦藁帽 高松ゆか(神奈川県)
- 172 蟬しぐれはかなき命響きけり 針生清(千葉県)
- 173 オスプレイ鬼やんまには成れまいに 吉村充治(埼玉県)
- 174 また逢える日の楽しみや盆の月 野村牟人(東京都)
- 175 盆過ぎていつのまにやら吾亦紅 鈴木みえ(長野県)
- 176 母の墓生身を洗ふごと洗ふ 新田一望(岩手県)
- 177 凌霄の花愛でくれし隣家去る 中山日出子(大阪府)
- 178 ふる里のちははの墓洗ひけり 中西秀雄(東京都)
- 179 メロデーに合わせ噴水遊る 杉原明子(静岡県)
- 180 脳内に時折育つ含羞草 緑川植男(埼玉県)
- 181 いま在りて大河の一滴盆花火 内田東三(埼玉県)
- 182 少年よ大志を抱け秋高し 宇田川正雄(埼玉県)
- 183 白馬岳雲海染し露天風呂 西條公雄(埼玉県)
- 184 面壁の達磨像描く夏書筆 勝田久美(大阪府)
- 185 青野ゆく身ぬちの青むまで歩く 中岡昌太(神奈川県)
- 186 印度なる白亜の廟に風渡る 長野光康(神奈川県)
- 187 泥鰌鍋いつもの席の鬼平忌 上村元義(神奈川県)
- 188 生涯のあの日あの空敗戦日 岩村昇(神奈川県)
- 189 晩夏光石ころに影の一つつ 小野寺裕子(宮城県)
- 190 朝顔のむらさき理科の時間です 竹澤茂子(大阪府)
- 191 つかまへし螢火もれる指間より 青木涼子(埼玉県)
- 192 にれ渡る風は潮騒夏木立 岩橋千代子(北海道)
- 193 石灼けて地蔵の面の歪みけり 沢井博(群馬県)
- 194 秋高し嫁入舟に米俵 大曾根育代(埼玉県)
- 195 熱帯夜老いて横座の箱枕 橋本まこと(栃木県)
- 196 重きもの下ろせし今朝の白木槿 木田亜津子(兵庫県)
- 197 母正座し頬ぬらし聞く終戦日 大久保アヤ子(東京都)
- 198 夕さりの風に揺らぐや立葵 春口蓮男(静岡県)
- 199 藍浴衣踊り明かした昭和かな 荒堀美代子(滋賀県)
- 200 新涼と書く文字空の青さかな 山本善輔(兵庫県)
- 201 秋の蟬コンクリートに仰臥の死 湯浅夏以(神奈川県)
- 202 滝音を聞く石碑や盆の月 神一男(静岡県)
- 203 夕虹に子等見上げては声はずむ 中田文子(大阪府)
- 204 巖を割り真逆さまに瀧の水 平山千江(岩手県)
- 205 夜半の秋こむらがえりに家うごく 北野耕兵(千葉県)
- 206 いきいきと今日を生きよと白木槿 大阿久雅子(東京都)
- 207 絆といふ越後の祭ありしかな 安木沢修風(新潟県)
- 208 一步退く老の主張や合歓の花 岡村君枝(茨城県)
- 209 引き寄せる気迫の扇子が縁を呼び 増田公代(東京都)
- 210 魂にふれて墓石の露時雨 仁藤ひろじ(埼玉県)
- 211 騙しつつ衣被また一つ剥く 原田麦吹(埼玉県)
- 212 皺の手に夢ころがして塩むすび 棚橋麗未(東京都)
- 213 鷺草の風に応へて翔つ仕草 高崎登喜子(東京都)
- 214 墓参する方向音痴水巴の忌 福田和子(東京都)
- 215 遠ざかるアベック台風秋高し 坪田勝秀(鹿児島県)
- 216 虫の音を運ぶ夜風と囲む膳 石川郁子(埼玉県)
- 217 童心にもどりに競ひ土筆摘む 五十嵐勝敏(新潟県)
- 218 秋茄子へ余計な手だし指に刺 田野井一夫(栃木県)
- 219 雨足の烟りて白し菖蒲園 柴田恵美子(北海道)
- 220 亡き人に会へる気のある花野かな 秋谷静子(茨城県)

- 221 父の忌や遺愛の扇子五十年
池田岬(埼玉県)
- 222 この年も思い出戻す夏の空
野中よしみ(神奈川県)
- 223 みちのくの万緑に入る列車かな
浅野信廣(宮城県)
- 224 逆光のサフラン一つは米の虫
椋本望生(大阪府)
- 225 黒揚羽毎日通る空の道
星一子(神奈川県)
- 226 湖に山影映る秋桜
齊藤安弘(神奈川県)
- 227 核は無し種なし葡萄も人の知恵
鈴木与平(宮城県)
- 228 噴水の舞い上がる彩落ちる彩
村木友光(埼玉県)
- 229 もう泳ぐことなき海の暮れなすむ
増本和子(大阪府)
- 230 季を思ふ端山が裾の法師蟬
池本勇(大阪府)
- 231 仏壇のははに似合いの藤袴
井田由利子(宮城県)
- 232 三坪畑芭蕉の愛でし茄子光かる
磯山陽吉(東京都)
- 233 手鏡にうろちよろる写る蚊の姿
吉野成行(愛知県)
- 234 果てし代やながき八月終い一夜
酒井多ま恵(岩手県)
- 235 平坦な道となりけり今朝の秋
大窪美代子(大阪府)
- 236 蟻地獄駆けては転び幼年期
高杉杜詩花(北海道)
- 237 老衰の気力の欠けの顕著なり
佐藤古城(埼玉県)
- 238 秋天にふつふつと湧く旅心
早川満(埼玉県)
- 239 茜空鳥語三つ四つ飛んでゆく
日下温水(東京都)

- 240 ごろ寝せる畳にもある夏の果
重原昇(新潟県)
- 241 対の鳩対のあきつを眺めをり
石井美智子(埼玉県)
- 242 水鳥のどつと目覚めて咲くことし
田中美智子(埼玉県)
- 243 朝夕のそよ風秋を呼寄せし
磯部力(新潟県)
- 244 兎飼ふ幼なと遊ぶ日永かな
須田洋子(埼玉県)
- 245 向日葵の立ち末枯れたる実の重さ
羽根田明(神奈川県)
- 246 天高く枯枝の身に賞の花
森崎榮久(岡山県)
- 247 秋夕焼炊き込みめしの焦げ目当て
福井展子(北海道)
- 248 堰にとぶ蝦すきとおり涼新た
西川孝子(奈良県)
- 249 遺されし句集静かに開く秋
森ふく(千葉県)
- 250 夕陽射す木樅老い足早くあり
吉澤昌美(長野県)
- 251 新涼やはがき一枚ポストまで
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 252 人憂ひ初秋のひと刻斜陽館
後藤茂(東京都)
- 253 夏ねむり冬めざめ咲くオキザリス
長谷部喜代子(大阪府)
- 254 土蹴つて歌つて踊つて草は実
高垣勝代(大阪府)
- 255 日に一度通ふバスあり秋の宿
佐藤信(神奈川県)
- 256 兎に習う折紙のこま夜の秋
坪井和子(愛知県)
- 257 暑き秋音色涼しやカネタタキ
岡弘子(埼玉県)
- 258 一服の涼風鈴に貰ひけり
山崎ゆき(東京都)

短歌

- 259 炎天下まだ踏ん張れる足がある
辻升人(東京都)
- 260 縁側で柿干す繩に柿くるるばあの昔
話ごと聴く孫娘 小黒深雪(新潟県)
- 261 泡一つ吐いて金魚がまた沈む互いに
話しているらしい
岩崎政弘(岡山県)
- 262 夏野菜続く猛暑で萎えはじむ立ち枯
れてはと散水の日々
田中豊恵(新潟県)
- 263 黙々と歩むポーター夏の尾瀬あへて交
はさぬ山の挨拶 大竹憲弥(新潟県)
- 264 夕立ちは大地的に蒸し返す三重の
虹にはあら!!ありがとう
佐伯セツ子(香川県)
- 265 水蓮に羽を閉じたる蝶一つ微動だにせ
ぬ真夏日の午後 高橋邦子(高知県)
- 266 征く人と川に沿ふ径歩きたり小さき
石ころ足で蹴りつつ
佐々木都(長野県)
- 267 愛とか恋はきらいだ生きる方針を趣
味娯楽教養とした
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 268 脱原発デモに参加の一女性原発作業
員の母親なりと 今井忠一(東京都)
- 269 山の湖に若人集い浮雲に思いの丈の夢
を託せり
山本敏順(長野県)
- 270 真夜中のロンドン五輪ガンバレと応援
しつつ我ねむくなる
新井賢(埼玉県)
- 271 盆休みうつし絵の亡父海軍に合格し
たぞと嬉し気に言う
会田とし子(神奈川県)
- 272 伴せの予約も取れず生まれ来て遺書
確かめる74歳の眞夏
齋藤忠弘(千葉県)

- 273 人生は美しきものシャンソンもひねも
す唄う和製のピアフ
阿部澄江(宮城県)
- 274 被災地の小さき遺体にランドセルわ
ずかに青き色を残して
寒川靖子(香川県)
- 275 収穫を待ちいるごとく掌に重し深紅
の桃よ青春のいろ
土屋喜雄(山梨県)
- 276 意識なき姑にはめ来しわが指輪息ふ
き返すの電話が届く
小笠原紗恵子(神奈川県)
- 277 世の中がシステムなれば罪責の思い消
えざるフクシマ、オキナワ
篠原三郎(静岡県)
- 278 もの煮ゆる音のやさしさ野火あとを
つつみて淡き春の雪ふる
北岡晃(兵庫県)
- 279 もう残暑書道展の一隅や象形文字が
挑びはねおり 濱崎祥子(鹿児島県)
- 280 紙袋に入れてくれたる青りんごこの
店の奥は荒き海なり
久保和友(滋賀県)
- 281 津波にて多くの命奪いたる海は哀し
き色に染まりぬ 釣本峰雄(北海道)
- 282 お盆まで散水つづけ涼風に左右にゆ
れしコスモス一輪 三浦博(岩手県)
- 283 セシウムの不安かかふるコーン畑に月
の輪熊の糞どつさり
黒澤正行(福島県)
- 284 利休像の軸に一礼待つ程に茶道入門
許状授る
今井温子(奈良県)
- 285 身ほとりに書店なけれど新聞の新刊
案内繰返し読む
萬濃その子(神奈川県)
- 286 弟と共に聴きをり竹炭の風鈴風にし
ずやかに鳴る
小暮昭司(群馬県)

287 妻逝きて二十五回の盆迎う我は元氣
で墓の掃除を 関子利明(兵庫県)
288 寺庭の白きハス花咲き並び墓石みが
きの汗を忘るる 高須孝(愛知県)
289 スカートの丈のあたりにひも長きリョウ
ク背負いし女子高生は 桑原謙一(群馬県)

290 ひそやかに旅立つ如くさざ草の花開
きたり八月の朝 緑川葉子(福島県)
291 炎天下ギシギシと鳴るウッドデッキ熱
中症で我ヶ身も細る 音喜多千津子(埼玉県)

292 梅雨空が連れくる声か遠蛙かそかに
聞ゆ今宵の街に 山内寿子(京都府)
293 すすぎ干す藻屑のごとき嬰の衣に露
台の風がはやも戯る 寺尾令子(東京都)

294 帰路の駅プラットホーム待つ電車乗ら
んと急いで脚を狭間に 佐野澄江(山梨県)
295 ハイキングにジョギングにも遠ざかり
日々の散歩に脚力の萎ゆ 椎忠夫(神奈川県)

296 主亡くも暑いこの夏あざやかにやさ
しくみえるおしろい花は 大鳥居牧子(東京都)
297 畑仕事年々老いをしられけりいでし
小石のおもさかな 宮沢千代子(静岡県)

298 主婦われの息抜きのごと色さまざま
の造花を買ひ来ぬ猛暑のけふは 木暮珣子(群馬県)
299 長月は我嫁孫の誕生月残暑厳しく感
謝の念を 田中迪子(東京都)

300 無花果の匂い香りてふる里の竹馬の
友の今を知りたき 辻忠城(東京都)

8月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返答をお寄せ頂きありがとうございます！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

《大賞》

49 語り部のまたひとり逝く原爆忌
田中昶(鳥取県)



田中 昶様

・戦後六十有
余年を経た悲
しみ 吉田未
灰(群馬県)
何年たつても
忘れられない語り部の心尊し 原田か
ずゑ(千葉県) ・戦後67年記憶は風化さ
れそうになる。一人でも多くの方が次
代へ語り継いでほしい 紺谷睡花(東京
都) ・人皆老いて風化しなければ良いが
沢井博(群馬県) ・体験者の語ること
ばの重さ！原発の賛否が問われている今
尚一層重く受けとめられる 大阿久雅
子(東京都) ・昭和が遠くなり語り継
ぐ人々も老いて逝く然しいつまでも語り
継がねばならないのです 棚橋麗未(東
京都) ・戦後67年、福島原発もあり
しつかりと後世に語りつがねばと思いま
す 秋谷静子(茨城県) ・戦争の悲しさ、
空襲の恐しさ、十四才の私達にも機銃
掃射した戦争。(長崎の原爆雲は忘れ
ない、育った地が福岡県で有明海を越え
て見えた。) 野中よしみ(神奈川県) ・
放射能の恐ろしさを！戦争の悲惨な事
を！語り次ぐ人がだんだんいなくなる、
残念です 森崎榮久(岡山県) ・時世に
合つてしみじみそうだと感じる 加藤
久美子(新潟県)

【自句自解】

昨年広島島の語り部の方の生きざまが報道され、心に残り留めおいた一句です。原爆忌、敗戦日等は昭和の歴史から生れた新しい季語です。「またひとり逝く」の中七は簡明に表現していますが、年々次々といつことを加味したものです。被曝後六十七年の時の流れと高齢化、被曝という重い生涯に深い思いを込めた鎮魂と平和の祈りの一句です。今後原爆の証言を風化させないで伝承されることを乞い願う次第です。

《俳句》

179 学ぶとは生きることなり青嵐
山崎鶴恵(鹿児島県)

・齢を重ねても知らないことは多い。知らないことを嘆くより、学ぶことの大切さを感じる。それは生きることである。「生きることなり」の断定がよい 稲垣恵子(埼玉県) ・万緑をゆるがして吹きわたる風季語がとも生きています 中野勝子(鹿児島県) ・日々一言でも、学んでいたい 松尾正一(岩手県) ・生あるうちは何事も学ぶという前向きな姿勢に拍手をおくります 高橋まさ子(宮城県) ・何歳になつても学ぶことが生きている 竹澤茂子(大阪府) ・まさに人生は学ぶことですね、机上の勉強だけでなく 福田和子(東京都) ・青嵐の季語がよい 石川郁子(埼玉県) ・命果てるまで旺盛な探求心は生きる力になり得るのですね 浅野信廣(宮城県) ・この句の通り同感です 池本勇(大阪府)

《短歌》

204 妻臥して天下捕つたと庭の草空き家
の如く我を責めぬ
野中よしみ(神奈川県)

・私も草取り傭です。本当に病んでなんかおられません。(同感) 田中豊恵(新潟県) ・同感、同感 内河邦久(東京都) ・妻が病気になる庭の草が伸びて行く夫の気持が手に取る様にわかる 関子利明(兵庫県) ・天下捕つた草の成長に家庭内の異状を強く表している 音喜多千津子(埼玉県)

《川柳》

235 未知数をいっばいに抱くもみじの手
五十嵐修(東京都)

・生まれたての赤ちゃんはそれこそ白紙だんだん成長につれ持つて生まれた知能で思いもかけない人物になる 大岩歌子(岡山県) ・これからどんな色に染まるのか注目ですね 松田義登(福岡県) ・わかりやすい表現の中に子供の末広がりを感じさせられます 松田重信(埼玉県) ・希望を感じる南喜美子(千葉県) ・赤ちゃんに対する愛情、期待がうかがえて楽しい川柳です 藤沢健二(千葉県) ・作者のキャリアと人間性を感じます。(未知数が上手い！) 坂元正憲(東京都) ・未来は大臣かも！ 鏡たか子(山形県) ・孫の誕生の喜びを句にされた感じが未知数いっばいに表れていた 松尾健二(千葉県)

《他にも》

14 ハンモック風の期限を聞いてをり
川口襄(埼玉県)

193 朝ドラの梅ちゃん先生我が余生残り
命を確かめてくれ 齋藤忠弘(千葉県)

249 遊び下手昭和一桁屋台酒
久本にい地(岡山県)

※今後ふるってご投稿をお願いいたします！

前回のアンケート

Q:深まりゆく秋、
何をして
楽しみたいですか？
紙幅の関係上、
すべてのお答えを掲載
できませんことをお詫び
申し上げます。



★紅葉狩り

- ・紅葉をはじめた林の中を歩きたい。
佐々木都(長野県)
- ・紅葉行脚をしてみたいです。
有坂馨園(福島県)
- ・もみじ巡りのドライブです。「春は桜、
秋は紅葉等」これが私の定番です。
山崎吉晴(群馬県)
- ・ふる里(高知)で「いとこ会」に参加、仁
淀川の澄んだ水、渓谷の紅葉を共に
楽しみにしています。
森川千英子(千葉県)
- ・毎年行くのですが、弥彦のみみじ谷の
紅葉を堪能できます。
田澤宏(新潟県)
- ・近郊の名所めぐったり近間の紅葉
狩り、温泉めぐりなど、少し外に出て
自然と親しみたいです。
井田由利子(宮城県)他

★読書の秋

- ・昔から「読書の秋・芸術の秋」そして
実りの秋です。
佐藤古城(埼玉県)
- ・美しい虫の声を聞きながら読書したい
ですね。
大江秋月(兵庫県)

★旅行・温泉

- ・出来れば夫と旅行を。出来なければ
水族館めぐりを。
岡弘子(埼玉県)
- ・今年12月迄「奥の細道」追っかけの
旅の予定。
奥那於子(大阪府)
- ・白糸の滝(紅葉を見にゆきたいです。
(富士宮)
清まさじ(静岡県)
- ・近くてもよい亡き夫と旅したなつか
しい地へ一ヶ所でも行けたらと思いま
す。娘に介護されながら。
堀木和子(大阪府)
- ・五十年來の親友と奈良旅行をします。
秋谷静子(茨城県)
- ・菊人形を見に行く。
工藤昌見(山形県)
- ・句友と温泉巡り。
渡辺茫子(千葉県)
- ・機会があれば名所旧跡など訪ねられ
ればと思います。
佐野しづ子(愛知県)他

★散歩

- ・愛犬とお散歩しながら紅葉をみて、
夜は一緒にお月見♪
大橋絵代(千葉県)

★登山

- ・快晴の日の登山
吉澤昌美(長野県)
- ・里山あるき
小林敏宏(長野県)
- ・山が大好きです。「山の会」を脱会し
ましたが低い山に登りたい。紅葉に
囲まれた温泉にも泊りたい。
山本紀昭(埼玉県)他
- ・山歩き。夏は控えているので紅葉求
めてそろそろ動き始めます。
栗原黎(群馬県)

★作品作り・作句

- ・勿論、秋の風情の俳句を詠んで楽し
みます。
阿部徳夫(宮城県)
- ・猛暑から抜けて公園を訪ねて自然の
短歌を作りたい。
今井忠(東京都)
- ・もちろん「俳句」「読書」時間だけは
たっぷりある。
紺谷睡花(東京都)
- ・四季の中で秋が一番好き、一人の時
間をモカコーヒを飲みながら、ゆっ
たり。創作や読書、やる気がでる。
濱崎祥子(鹿児島県)他

★吟行

- ・俳句会の吟行に参加します。
道給一恵(埼玉県)

★お酒

- ・静寂な吟行
福岡悟(東京都)
- ・吟行
山崎紀久江(福岡県)
- ・気の合った友人と吟行に行きたい。
大阿久雅子(東京都)
- ・秋を見つける吟行へ
中岡昌太(神奈川県)他
- ・酒盛り。正しくは旨い酒を片手に俳
人の端クレとして月を愛で虫の声に
耳を傾けながら俳句を楽しみたい。
鈴木蝶次(宮城県)
- ・秋の夜長です。やっぱり時間をかけ
てちびりちびりでしょうね。(お酒)
稲垣恵子(埼玉県)他
- ・ハイキング
長野光康(神奈川県)
- ・ハイキング
坪井和子(愛知県)
- ・ハイキング(紅葉)、姉妹との旅行な
ど予定がいつばい
小山恵美子(大阪府)他
- ・林檎狩りのあと林檎湯に浸かる。
大竹憲弥(新潟県)
- ・梨狩り。崎山にも梨農家があり、
ボーイやガールスカウトの子供たちも
参加する。
布目雅之(埼玉県)



★文化の秋

- ・文化祭です 藤田三四郎(群馬県)
- ・文化祭の野外音楽会の立ち聴き。アコースティックギターの演奏や女子高生のフォークソングの合唱。中高年のジャズ演奏 居原田連星(大阪府)他

★整理整頓

- ・若い時のアルバムを繰ってみたい。そしてまとめてみたい。 袖山美峯(東京都)
- ・毎日三十五度以上で蔵書の整理を中止しているので再開をしたい。

青木日出男(群馬県)

- ・涼しくなってきたから家の中のレイアウト、気分が良くなります。

楠瀬美香(高知県)

- ・一年間作った作品をゆつくりと整理する。楽しみです。

諸橋文男(新潟県)他

★音楽の秋

- ・好きな楽器を持ち出して秋の夜長を楽しみたいと思っています。

北岡保興(愛知県)

- ・粹に秋の月をながめながら三味線と小唄を楽しみたいです。

阿部澄江(宮城県)

- ・三味線を弾きながら小唄です。

北村純一(神奈川県)

- ・特に秋に限ったことではないのですが、『楽しいカラオケ』を一年中楽しんでおられます

鈴木章(新潟県)

- ・懐メロでも聞きます。そして自分も唄いたいなア...

神一男(静岡県)他

★食欲の秋

- ・昔風の大きい、しょうゆ焼の「おにぎり」持って河原で食べたい。

千代田俳徒(東京都)

- ・ささやかだが栗御飯を食したい。

加用章勝(千葉県)

- ・ちよつとリッチな外食

加藤久美子(新潟県)他

★釣りの秋

- ・残り少ない溪流の釣期を有効に使用したい。

井上静夫(栃木県)

- ・漁釣り

三ッ木宗一(東京都)

★釣りの秋

- ・「しばらく行っていない「海釣り」。

きたー!の手応えが忘れられない。

針生清(千葉県)他

★秋の花

- ・季節の移ろいの楽しみはやはりお庭、秋の花が咲いています。

富樫和子(山形県)

★絵を描く

- ・俳画と水墨画を描くこと。

岡村君枝(茨城県)

★秋の虫を楽しむ

- ・虫の音(声)を聞く

鈴木義雄(福島県)

- ・虫の音を聞きながら読書三昧です。

高崎登喜子(東京都)

- ・虫の鳴く音を心ゆくまで楽しみたい。

私の好きなのは「カネタタキ」けなげ

でかわいい。萬濃その子(神奈川県)他



★収穫・耕作

- ・収穫 宮沢千代子(静岡県)
- ・野菜の収穫 野田明夢(新潟県)

- ・庭のすみに今年も秋やさいを植える楽しみがあります。自分の好きな物

すぐ間に合っています。

佐伯セツ子(香川県)

- ・家庭菜園のいも掘りで実りの秋を堪能したい。

小林七重(新潟県)他

★きのこ狩り・芋煮

- ・芋煮会・紅葉狩

浅野信廣(宮城県)

- ・田舎ですから茸採や鍋っこの会(芋煮会)

土谷敏雄(秋田県)他

★スポーツの秋

- ・マラソン大会出場 千葉アクアライン、神戸マラソン大会、ETC)

新井賢(埼玉県)

- ・猛暑で休んでいたゲートボール。さわやかな秋風の中でのゲートボール大会楽しみます

田中豊恵(新潟県)他

★習い事

- ・短歌でもゆつくり学びたいと思います。

田中迪子(東京都)

- ・今年から市の老人大学に入りコーラスサークルに加入。コーラスは初めての挑戦、仲間とのハーモニーを楽しめる所までいくか?

長峰正晴(千葉県)

- ・パソコンの学習 遊佐早苗(宮城県)

何か楽器をやりたいです。でも三日坊主で終りかな!

福田和子(東京都)他

小山たけし(埼玉県)

堀田寿美子(北海道)他

- ・枯れ葉を燃やしゆつくり只々の間を

持たたい。 松田義登(福岡県)

★写生

- ・写生 白戸麻奈(東京都)
- ・写生散策(俳句・写真) 早川満(埼玉県)他

★お友達と会食

- ・老い仲間との会食と談笑。

守屋高雄(岩手県)他

★芸術の秋

- ・芸術展シヤルダン展に行く予定。

田中美智子(埼玉県)

- ・画友と秋の紅葉等の風景画の素描に

画題・画材を求めて旅をすることが

何よりの楽しみです。

須澤重雄(長野県)

- ・平塚美術館に行く予定です。小倉遊

亀と鍋木清方の二人展9月2日まで。

小笠原紗恵子(神奈川県)

- ・この秋神戸美術館へフェルメールの絵

画が展示されますので楽しみにしております。「真珠の少女」に会いに行きます。

中村和弘(愛知県)

- ・美術館、河北展(書道) 現実はず

かしい!!介護の身ですから。

柳澤京子(宮城県)

書道大作に打ち込む又、美術館の書

展に行きりフレッシュ。映画の試写会

にも参加したい。 勝田久美(大阪府)他

★その他

- ・10Fのベランダで、夕陽から月を見ながら童謡をハーモニカで吹いて妻が

口遊みます 鈴木満明(東京都)

あれもこれもと楽しみたいことは沢

山ありますが、しほり切れず少しは

ボンヤリしているのいいかな...と 鈴木みえ(長野県)

・ぎっくり腰で歩くことも苦勞であった三ヶ月。地球博物館主催の自然を楽しまたいです。美術館も行きますが、館内が暗く、人の多さに観賞に疲れるから、年に三回程です。

野中よしみ(神奈川県)

・老いらくの恋 松田重信(埼玉県)
・筆で巻き手紙をかいて楽しんでみたい
・カメラを持ってまだ通ったことのない道をドライブしたいですね。

・小盆栽 針ヶ谷里三(東京都)
・映画を見る。 山崎ゆき(東京都)
・各地の川柳大会めぐり

・安田翔光(香川県)
・関屋公民館の文化祭で「ウクレレ演奏」で参加・水墨画の展示も楽しみ。
・水落重式(新潟県)

・栗原市俳句大会の開催
・田島星景子(宮城県)
・故郷糸魚川の海辺へ行きたい。

・鹿児島の秋をさがしに 竹内ハヤ子(埼玉県)
・阿部重則(鹿児島県)

・秋深む四圍の山々も紅葉しロマンチックそのものだが病む老体の我にとつては向寒準備に頭が痛い。
・延原令岱(岡山県)

・秋風だ風鈴を仕舞うか、今年は余り鳴らなかつたなあ。 石原岳(群馬県)
・秋遍路 津布久信雄(東京都)

・十一月十日、十一日の地区文化祭に向けて舞台監督よろしく構成を頭に描き、学校巡りを考えている。
・仁藤ひろじ(埼玉県)

・川柳会に入会、頭痛めます。
・岩橋千代子(北海道)

・先き頃はサスペンス(推理小説)でしたが最近では時代小説に乗り換えました。 羽根田明(神奈川県)
・東西の歴史について史料を調べ検索したい。 五味田幸夫(栃木県)

・大和の古寺へ新しく建立された会津八一の歌碑を巡りたいと思っています。
・中山日出子(大阪府)

・東京の街角巡り 緑川禎男(埼玉県)
・友人と句種をひろいに行く。 須田洋子(埼玉県)

・サークルやボランティア行事の参加がたのしみ。 原田かずゑ(千葉県)
・今から手編のベストを編もうと思っております。 関根千恵(埼玉県)

・カラスのために天辺の一個を残し熟れた柿を全部もぐこと。 古谷力(東京都)
・今年一番の爆睡 安部哲(新潟県)

・クツキング、オシャレ。 南喜美子(千葉県)
・本山お寺詣り 田中昶(鳥取県)

・今年から市の老人大学に入りコーラスサークルに加入。コーラスは初めての挑戦。仲間とのハーモニーを楽しめる所までいくか? 長峰正晴(千葉県)

・今年こそ老の身辺整理を。 佐伯はる(奈良県)

・今の所まだ決まっていますませんが今まで通りお喋りです。高井逸代(岡山県)
・古い寺巡りをして仏像にいやされたい。 岩崎令子(大阪府)他



新潟ぶらり

★旧小澤家住宅

狭い小路を抜けると、すぐにそれと分かる黒い板塀の存在に驚いた。かなり高い塀で、ここだけは異空間という印象。小の字をマルで囲んだ紫色の暖簾をくぐって中に入る。見学者で大賑わいだ。

旧小澤家住宅とよばれているこの建物は、江戸時代後期から新潟町で活躍していた小澤家の店舗兼住宅で、小澤家は新潟を代表する商家である(歴代当主は政財界で活躍、小沢辰男が有名)。もともと米穀商を営んでいた小澤家。明治の初期に回船経営に乗り出し、回米問屋等様々な事業に進出、財を築いていったという。当住宅は人をもてなす空間と、小澤家の人々が生活する空間の二つが同居しており、見学するにも人の気配、生活感が感じられるのがおもしろい。

生活空間が近いとはいえ、おもてなし空間のしつらえは相当なもの。宿泊するお客様専用のお風呂やお手洗いはモダンなつくりで、今日にも泊まれそう。大切なお客様をお通ししたという「百合の間」からは、松島の景色を模した庭がみえる。歩いて楽しむよりも、部屋のなかから眺めることを想定しているこの庭をつくっているのは、さすが回船業、紀州石や四国の松、佐渡



■北前船の時代館 旧小沢家住宅(新潟市文化財)
入館料:200円
住/〒951-8068 新潟市中央区上大川前通12番町2733番地
☎/025-222-0300

の赤玉石など各地から船で運んできたものばかり。また、足のわるい要人も多かったことから、隣の「藤の間」には当時椅子とテーブルが置かれ、洋風にしてあったという。回船と聞くと商人・お金持ちといったイメージが強かったのだが、何より先にあたたい心遣いがあるのだと知った。ふと見上げると吉田茂や池田勇人の書があり、これもまた驚かされる。凝った調度品の数々も、ここを訪れた客人を満足させたことだろう。

見学を終え、ふたたび受付に戻った。ガイドと思いき方が嬉しそうに「いや、今日はせわしないなあ」。当てもこんなふうには賑やかだったのだろうか。おもてなしに奔走する当時の人々を想像しながら、お礼を言ってお外に出た。(菅真理子)

●お客様の『リレーエッセイ』

日本音楽とクラシック

内田友子

(東京都・新宿区)

私共夫婦は、見合結婚である。

さる方から紹介され、三回目位のデートの時、進まぬ話題の一つになればと思って「私はいろいろな作家のレクイエム、ミサ曲、バッハの曲などが大好きで歌っています」と言ったところ、彼は「あ、そういうのバアさんの念佛みたいなものでしょ。僕は江利チエミの歌が大好きです」と返事が返って来た。

シヨックは大きかった。さつそくに仲人さんにお断りのお電話を入れたが、「人生それ程のことがすべてではないでしょ」と強い説得を受け、ずるずると付き合いを続け、一年後に結婚する羽目になった。五十二年になる。

主人は、神楽坂に生まれ、育ち、三味の漏れくる路地を通過して学校へ通った。学校は、戦争中のことで、軍歌以外の音楽はない。戦中戦後の食料にも乏しい中で、音楽会に行くようなこともなく育った。終戦後出会ったテレビの画像から「ひばり」「チエミ」の音楽が、三味の音と重なってしみこんだようだ。趣味の狭さを責めると、「頭で勝負！」と胸を張る。

日本風土にクラシック音楽が根付かないのは、日本が農耕民族だ

からだと思う。明治以後、学校教育は、西洋音楽中心になったのに、リズム、ハーモニーになじめない人が多い。日本人は、ハーモニーに適応性がない民族なのではないか。

学校教育は大事である。クラシックの頭声発声とか、表現の複雑さはなかなか体質的に受け入れられない人達も多いのである。リズムもそうである。西洋音楽は教会音楽の影響も大きく、グレゴリアンの単調なのほりくだりの音も、信仰と深く結びついて心に沁み入って行く。ちなみに主人は熱心な佛教徒である。

私も神楽坂に住んで永い。しかし、一向にマイペースで、別々の趣味を持って、家庭内別居のような生活を続けている。

朝六時、BSで一時間西洋音楽が流れる。PP(ピアノシモ)が聞こえにくいので、少しボリュームを上げると隣の部屋で寝ている主人がうるさいとどなる。あわてて小さくする。それでも私には至福のひとつである。

週三回、歌をうたうためにでかけてゆく。夕餉の仕度をして出かけるのだが、もう一品と違ってゴソゴソしていると「時間に遅れるよ、もういいよ」と言ってくれるので、楽譜を抱えてとび出す。

五十年の間、七、八十回本番のコンサートがあり、毎回切符をかかえて友達に頭を下げているのに、主人は今日まで一度も聞きに来てくれたことはない。

でも、二人で一杯やっている時など「おれ達は喧嘩しないねー」とのたもうのである。

滋味しみじみ◎◎◎

食に関するミニエッセイ

北村純一様 (神奈川県・厚木市)

「食の安全・安心」が求められているのに、飲食店で提供された商品をその店のスタッフに質問しても答えられないケースが多々あります。その商品の調理方法を見たことも食べたこともないという反応には驚きます。ところが、調理方法を見たり食べたりしているスタッフは自信に自分の感性も添えてくれるので、その商品知識に「安心・安全」を感じます。講演や経営指導などで各地へ行きますが、地産の食材を使った料理をさがすことも楽しみの一つです。その土地の歴史文化や風土が料理にもいかされているような飲食店をさがします。チェーン店よりも暖簾の形状や歴史を感じさせる個人経営らしい店を見つけると嬉しくなります。スタッフの言葉遣いに土地柄を感じながら商品も一緒に選んで貰います。前述の商品知識をそのスタッフに感じたらお酒まで美味しくなるから不思議です。「食」の文字は、「人」の下に「良」とかきますから「人を良くする=幸せな気分」にさせる」と拡大解釈すれば、幸せな気分させてくれる「商品の品質」、「接客サービス」、「雰囲気」の三拍子揃っている店が最高です。

前回の「喜怒哀楽 8月号」の「滋味しみじみ」に「母の味」と題してご投稿いただいた佐藤茂三郎さまが(2011年「喜怒哀楽 6月号」P4「笑顔礼讃西・東」にも掲載)、8月19日に永眠されました。ご自分のことをおどけながら「平成の芭蕉」とおっしゃっていた茂三郎さま。8月19日、まさに俳句の日に亡くなられました。周りの方に、いつもながしかを与えてくださる方で、親切にしてくださいました。今頃、母の永遠の味「五木めし」を味わっておられるでしょうか。奥様、お嬢様ともお会いになれたでしょうか。ありがとうございました。

●食に関するミニエッセイ「滋味しみじみ」の原稿を募集しています。400～500字の原稿をP16下記の宛先に封書がメールにてお送りください。勝手ながら採用の可否については、弊社に一任させていただきます。おいしいお話、大歓迎です!!

第3回 良寛・国上寺全国俳句大会

前回の「喜怒哀楽 8月号」でお知らせした標記の大会が、9月22日、新潟県燕市の国上寺において行われました。

当日は東京、千葉、埼玉、福島、宮城などから30名程の方が参加され、選者の中原道夫氏を囲んで、秋晴れの彼岸の中日に秋の季節のゆきあいを楽しみました。

●当日の結果

【大賞】

饒舌の風鈴の舌取り替へる 新潟・三条市 阿部真千雄

【入選】

蛸のゆきわたりたる暮色かな 埼玉・川口市 青木 暁星

良寛と子らのものなり大夕焼 宮城・仙台市 丸山みづほ

盗人も盗らずに去ぬや庵の月 新潟・三条市 星野 三興

かはほりや空にひと日の濁りあり 山形・山形市 武田 菜美

9人目のメンバー 登場!

以前(喜怒哀楽 4月号)、「9人目のメンバーになりませんか?」の呼びかけに快く手を挙げてくださったお客さま、誠にありがとうございます。ご依頼したところ、須澤重雄さま(長野県・伊那市 洋画家 日本美術家連盟会員)が早速、挿絵を送っていただきました。11、12、13Pの絵がそれです。ありがとうございました!! 皆さま、ぜひ続いてお寄せください。

ポストカード好評発売中!

毎回ご好評いただいた当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円×各季節)。今回は秋バージョンより「紅葉」を同封いたしました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。**



スタッフの一言

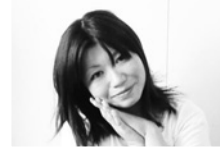
Q. 深まりゆく秋、何をして楽しみたいですか?

木戸 敦子



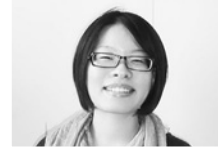
「秋深き隣りは何をする人ぞ」どころか「己は何をしたいのか」も11月末まではわからない、わからない。終わったらどっか行くぞー! それまでは気持ちのいい秋空の下をバカ話しながら走ってる♪

古川 久美子



ハロウィンパーティーはぜひ!(笑)あとは、しんみりと月を愛でながら日本酒でも…?

菅 真理子



ばたばたしているうちに見逃してしまった夏のシャガール展。この秋は若冲が来ているので、今度こそ!と意気込んでいます。車ではなく、バスで行って観光気分を盛り上げようかと…♪

山田 千秋



何またこの季節になると一年を重ねる私…。秋の夕暮れに物悲しさを感じてしまうのはこのせいでしょうか? 食欲の秋ですが食べすぎてもカロリーの低いきのこ! 満喫したいと思っています。

木伏 美美恵



スポーツ、読書、旅行。やりたいことは沢山あります。欲張りな計画を立てて、家族を引っ張りまわすことでしょうか。まずは、秋空のもとお弁当持ってピクニックに行きます。

上村 真智子



旧友に会いに行こうと思っている。二十年ぶりの人もいるので、オシャレして行きたい。次の日は横浜中華街にある関帝廟に行く予定なので、二日酔いにならないようにしなければ!!!

金子 ゆり子



私の一番好きな季節になりました。静かな夜に虫の声が聞こえてきます。稲刈りも終わり、梨の収穫が終わると好きなことができます。まずは本を読み、紅葉を見ながらゆっくりと歩いてみたい。

石山 由希子

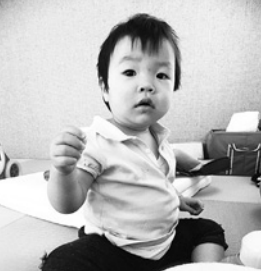


私も若冲が見たい(菅参照)!さらに梨木香步著「裏庭」をワクワク読む。あとは食欲も満たしたい…。ほっくほくの焼芋、栗。好きなものが集中する実りの秋です。

吉田 瞳



木の葉のリース作り☆まずは子どもと秋の公園を木の葉を拾ったりお弁当を食べたりし、夜な夜な黙々とリース作りをします♪



8月25日に1歳になりました! 大器晩成型です。



今日という日が終わる前に

千葉 聡

国語科準備室前の小さな黒板に「今日のおすすめ短歌」を書き始めて三か月。正岡子規から松田わかまで、現代短歌を一日に一首。毎日見に来るファンも現れた。気を良くした俺は張り切っていた。

「夏休みに入っても、毎日書くぞ」

そう意気込んでみたものの、夏休みに入ると校内のあちこちで改修工事が始まり、校舎内で生徒を見かけることは少なくなつた。部活で登校してきた生徒たちは国語科前を素通りする。

転んでも転んでも夏くさはらをジーンズの膝み

どりに染めて

光森 裕樹

この一首を書いたあと、バスケット部の合宿があり、水泳部の練習が連日入り、とにかく忙しかった。黒板は書き換えられないまま夏休みも後半戦に突入。

好きだった世界をみんな連れてゆくあなたのカ

ヌー燃えるみずうみ

東 直子

この一首を書いたままでさらに二週間。こんなに長いこと黒板を放置しておいても誰も何も言わなかった。

始業式の前日、俺は小さな黒板をきれいに消した。二学期も短歌を書き続けようか。それとも、やめようか。

桜丘高校の生徒たちは優しいから、これからも折に触れて黒板の短歌を読んでもくれるだろう。でも、それは「先生の趣味に合わせてあげないとかわいそうだから」と気をつかわせることになるのかもしれない。三年生は大学受

前回の「桜丘高校の小さな黒板」が大好評。こんな先生に担任になってほしかった、という声が多数寄せられました。シャーペンの芯、こんなことあったな〜と共感！

験で忙しくなる秋だから、短歌紹介じゃなくて「古典文法のコツ」でも連載したほうが歓迎されるかも。

シャーペンの芯ぴちぴちと折りながら怒ツテキ

ルと口には出さず

石川 美南

最後の一首のつもりで書いた。どうせ短歌なんて小さな存在だ。俺がここに書いても書かなくても、世の中にとつてはどうでもいいことなんだ。どこへ向けたらいいのかわからないが、俺は怒っていた。

だが、始業式の日、帰りのホームルームを終えて国語科に戻ると、この短歌をじっと眺めている男子がいた。しかもお客様は二人組でいらつしやる。

「先生、この短歌、よくわかります。僕もこういうこと、やったことがあります」

俺は嬉しくなった。いや、ただ嬉しいというのではない。この男子たちの感想に救われた気がしてきた。短歌は、こういう共感を栄養にして育てゆく植物のようなものなのかもしれない。

「じゃ、明日も一首書くか！」

俺がつぶやくと少年の一人が言った。

「明日じゃなくて、今日書いてください。ほんやりしてると今日は終わっちゃういますよ。夏休み中、サボっていたんだから、たくさん書いてください」

靴紐を結ぶべく身を屈めればすべての場所がス

タートライン

山田 航

2012. 10. vol.64 (2012年10月10日発行/隔月発行)
 ●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
 〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17
 TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
 株式会社ミュージズ・コーポレーション ☎ 0120-819-395
 e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
 郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミュージズ・コーポレーション

編集後記

昨年12月にお見舞いにくがった柏のお二人が亡くなられた。一人住まいのSさんを心配し、Fさんが数年前から毎朝モーニングコール。俳句をきっかけに、尊敬し支え合ったお二人だった。Sさんを見舞い、Sさんお得意のサトウハチロー直伝の茹で卵を手し、柏の葉のFさんの病室へ。病床で最後の句集「今生」の構想をお聞きし、Sさんの卵をリレーするつもりでいたが手術前の点滴で口にはできなかった。自分のこと以上に相手を想う。いつも互いに、Sさんのおかげ、Fさんのおかげと口にしてた。4月と8月に…、本当に仲がよかった。親友が病を得た。教えていただいたことを無駄にしない。(木戸敦子)